

マクロ経済学

講義ガイダンス

山田知明

明治大学

講義ガイダンス



講義について

- 講義内容：マクロ経済学の基礎
- テキスト
 - ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト
『ALL マクロ経済学』東洋経済新報社
- 参考書：もっと知りたい人向け
 - 平口良司・稻葉大『マクロ経済学 [第3版] 入門の「一步前」から応用まで』有斐閣ストゥディア
 - 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田彰久『マクロ経済学』有斐閣
 - オリヴィエ・ブランシャール『ブランシャール マクロ経済学』東洋経済
- 事前知識
 - 経済学Aを理解していることを前提に話をします

講義に関して（続き）

- 講義関連情報について

- Oh-o!Meiji 経由
- スライドも Oh-o!Meiji にアップロード
- <https://tomoakiyamada.github.io/>

- 成績評価

- 原則として、毎週提出する課題（小テスト）により評価を行う
- 経済学 A のような計算問題は少ない
- 自分で統計などを調べてもらう課題もある

経済学 B の概要：テキストの目次より

1. 国の富
2. 総所得
3. 経済成長
4. なぜ豊かな国と貧しい国があるのか？
5. 雇用と失業
6. クレジット市場
7. 金融市場
8. 景気変動
9. 反循環的マクロ経済政策
10. マクロ経済と国際貿易
11. 開放経済のマクロ経済学

経済学 B の概要：テキストの目次より (続き)

1. 国の富：第 II 部 マクロ経済学への誘い
2. 総所得：〃
3. 経済成長：第 III 部 経済成長と発展
4. なぜ豊かな国と貧しい国があるのか？：〃
5. 雇用と失業：第 IV 部 マクロ経済の均衡
6. クレジット市場：〃
7. 金融市場：〃
8. 景気変動：第 V 部 景気変動とマクロ経済政策
9. 反循環的マクロ経済政策：〃
10. マクロ経済と国際貿易：第 VI 部 グローバル経済のマクロ経済学
11. 開放経済のマクロ経済学：〃

II. マクロ経済学への誘い

経済を診断する：政策当局が参考にする主要な指標の例

1. GDP (国内総生産：Gross Domestic Product)

- 一国の豊かさや経済状態を測る指標
- 何をどうやって測っている？

2. 失業率

- あと数年後には就職活動
- 時代と共に変わる雇用環境 ⇒ 日本的雇用環境の崩壊？

3. 物価 (インフレーション・デフレーション)

- インフレ/デフレの何が問題か？
- 中央銀行(日本銀行)の役割と金融政策

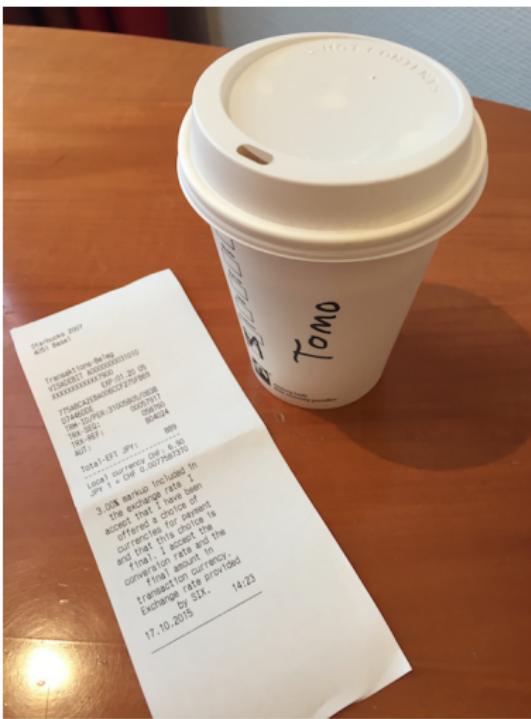
物価：スウェーデンの場合



物価：スウェーデンの場合



物価：イスの場合



III. 経済成長と発展

長期的 (Long-run) 視点から見たマクロ経済

- 「なぜ我々はかくも豊かで彼らはどのように貧しいのか？」
 - 日本、アメリカ、BRICs、アフリカ諸国 etc.
- 豊かな国と貧しい国との違いを生み出すメカニズム

IV. マクロ経済の均衡

- マクロ経済において重要な市場を個別分析：ミクロ経済学の応用

1. 雇用と失業 ⇒ 労働市場

- なぜ失業が発生するのか
- 賃金決定の基本的なメカニズム

2. クレジット市場と金融システム ⇒ 金融市场

- 銀行の役割
- 貨幣、物価とインフレーション

V. 景気変動とマクロ経済政策

短期的 (Short-run) なマクロ経済変動

- 好況と不況のメカニズム
 - 大恐慌 (the Great Depression) と大不況 (the Great Recession)
 - バブル崩壊以降の日本経済
- 不況の何が問題なのか?
 - 雇用不安と失業
 - インフレーション・デフレーション (物価変動)
- マクロ経済政策
 1. 財政政策: 国債発行と財政の持続可能性
 2. 金融政策: 非伝統的金融政策から金利のある世界へ

『マクロ経済学』が生まれた背景

- 大恐慌：1929年
 - 原因については今でも様々な意見がある
 - 金融的要因？それとも実物的要因？
- マクロ経済学の役割：1936年
 - J.M. ケインズ『雇用、利子及び貨幣の一般理論』
 - ケインズ経済学
 - 現在のマクロ経済学のスタート地点
 - 基本的な発想：財政・金融政策でマクロ経済を安定化
 - 対立する(?)見解
 - 最近の経済学者はあまり“学派”とか言わないけど…
 - 新古典派経済学 vs ケインズ経済学
 - Pure water economics vs Salt water economics

ルーカス批判：マクロ経済学のミクロ的基礎づけ

- 市場に頼るべきか、それとも積極的に景気対策すべきか？
 - 新古典派総合：短期と長期の使い分け
- ケインズ経済学の有効性と限界：1960 年代
 - スタグフレーション（高インフレ+高失業）の説明に苦慮
- ルーカス批判：1970 年代
 - 「経済政策を行うと人々の意思決定も変わるので、マクロ経済政策を考えるうえでミクロ的な人々の（合理的な）行動を無視するわけにはいかない！」
 - マクロ経済学のミクロ的基礎づけ ⇒ 一般均衡的視点

ケインズ経済学の復権？

- 1990年代以降、世界経済は安定化
 - 偉大な安定期 (the Great Moderation)
 - マクロ安定化政策がうまくいった結果？偶然？
 - 金融政策によるファインチューニング
- 大不況：2008年
 - 米国における信用の拡大と不動産バブル
 - 国境を超えるマネーと金融規制のあり方
 - 協調的な財政政策 ⇒ 新たな危機へ
 - 量的・質的金融緩和と“アベノミクス”
- 更なる課題
 - パンデミック後の世界経済
 - 少子高齢化と財政の持続可能性
 - 戦争とインフレーション

まとめ

講義目標 (1)

マクロ経済統計の中身 (と問題点) を理解する

講義目標 (2)

長期と短期のマクロ経済学を理解して、日本経済や世界経済の動向
を自分の言葉で説明できるようになる

講義目標 (3)

政府が行なうマクロ経済政策の意図とその是非を分析できるよう
になる